



オリパラ通信 Vol.14

パラ競技選手 からのメッセージ

加美町では、東京パラリンピック大会の直前に、パラカヌーのほか、パラパワーリフティングとパラ陸上の合宿を予定しています。

今回は、その2競技の選手からメッセージが届きましたので紹介します。

パラパワー リフティング 59 kg 級



ファン ガリード選手

3度目のパラリンピック大会出場を目指し、国の施設で合宿を行っています。外出自粛中でも普段と変わらず、練習ができることが幸せです。来年は加美町での事前合宿で、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

プロフィール

先天性の関節の病気のため、幼い頃から車いすで生活している。18歳からパラパワーリフティングを始め、これまでパラリンピック大会に2度出場。2019年の世界大会では金メダルを獲得。現在世界ランキング3位、東京大会でのメダル獲得が最も有力視されている。

パラ陸上 (投てき)



フランスカ
マルドネス選手

東京パラリンピック大会で力を最大限に発揮できるように、自宅のできる限りのトレーニングをしています。加美町の皆様、事前合宿を受け入れていただき、ありがとうございます。皆様との交流や、日本の文化に触れることを心待ちにしています。

プロフィール

22歳の時にハリケーンで負傷し、車いす生活となった。手術を繰り返し、リハビリのために始めた車いすテニスで、パラリンピック大会に2度出場。2018年にパラ陸上(投てき)に転向し、2019年の世界大会では、円盤投げで銅メダル、砲丸投げで金メダルを獲得。